



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.258
2015(平成27)年3月1日(日)発行

家族待つこのぼり



▲ 原町陸軍飛行場の正門

■ 1945(昭和20)年2月16日の原町空襲は、原町の雲雀が原に陸軍飛行場<写真>があり、米軍が硫黄島を奪取前に破壊するためでした。でも飛行場に隣接する原町紡織工場で、教師や勤労奉仕の若い男女4名が犠牲に。実はこれが「東北地方で初の空襲」だったことは、あまり知られておりません。
■ こんな東北の片田舎でも、軍の施設があったため戦争に巻き込まれました。

3.11東日本大震災・原発事故の体験・その思い 41

倉本聰「ノクターン」で原発事故の風化考えて

南相馬市原町区 野村静子さん(会員)

▼2月16日付『朝日新聞』投書より

倉本劇で原発事故の風化考えて

無職 野村 静子 (福島県 74)

鳴りやまぬ拍手と観客の涙の中、舞台劇「ノクターン―夜想曲」の幕は下りた。福島原発事故をテーマに、急速に進む風化に一石を投じたいと、脚本家の倉本聰さんがつくった劇だ。

この舞台を、原発を動かそうとしている人たち、原発が立地する自治体の首長や住民の方々にぜひ見てほしい。ふるさとを失った人たちの苦しみも、そして風化がどんなに恐ろしいことなのかを考えてもらいたいと思う。

公演終了後、名古屋から来たという若い女性に会った。「えっ、どうして遠くから」と問う私に、彼女は答えた。「名古屋で公演を見れば、こんなこともあったのかで終わり。被害を受けた人たちの

中に入って見てこそ、受け止められませぬ。情報通の私の友人さえ、福島にはもう仮設住宅はないんでしょと言ってます。もう風化してますよ」

劇が上演された福島県南相馬市には今も2800軒近い仮設住宅がある。地震と津波で家を失った人たちが、放射能汚染で家に帰れない人たちが入っている。皆将来が見通せない。私自身も被災者だ。1年8カ月間、仙台に避難した後、福島県の自宅に戻ってきた。除染は終わっておらず、ストレスで体調が悪い。

日々新しく起こる事件・事故や東京五輪に向けての報道の陰で、原発事故が忘れ去られていく不安を感じる。安倍晋三首相は衆院選の際に「福島の復興なくして日本の再生はない」と断言した。その言葉をどうか忘れないでほしい。

南相馬市公演も、全国巡回公演も順調で大好評です

◆福島に寄り添い、地震、津波、原発事故の風化を防ごうと、倉本聰さん作、演出の舞台劇『ノクターン・夜想曲』。◆二月一日の南相馬市の公演は、直接舞台になった相双地区の被災地での公演で、倉本さん自身「どう被災民が受け止めるか、皆さんを傷つけることにならないかな」と話しておられたそうです。◆でも、県内各地の公演後、どの会場でも拍手が鳴り止まなかった、と主催の『福島民友』が伝えています。◆右の『朝



日新聞』の投書は、会員野村静子さんのものです。



<野村静子さんの戦争体験>「戦争中、原町紡織工場(現・国見団地)は兵隊の服を作っていました。昭和20年2月16日の原町空襲のこと、私の82歳の姉から驚くような事実を聴きました。国民学校の鈴木小松先生が高等科(今の小学)5、6年生をその工場に引率して勤労奉仕中、米軍の飛行機から機関銃で撃たれて大騒ぎとなり、我が家の前を担架で渡邊病院に運ばれていくのを見たそうです。戦争について書かれた本は沢山ありますが、体験者は少なくなっています。昭和15年生まれの私が記憶してる最後の世代です。出撃する特攻隊員を夜明け前、姉と私の両親が原ノ町駅に見送ったことも覚えてます。」(これは、PCメールで送られてきましたが、上の題字の小文と照らしてお読みください。)

○皆様の「戦争体験」「震災体験」「主張」などを事務局へお寄せください。

福島県南相馬市・浪江町・飯舘村
＜東日本大震災ニ写真展＞
 南相馬市の写真家大槻明生氏(日本報道写真家協会会員)の「高力の」と大槻氏撮影の写真を中心に展示いたします。
 東日本大震災(2011年3月11日)から4年、いまだ地震・津波・原発事故、そして風評被害に苦しむ福島県の被災地の状況を「理解」ください。
(2015年2月 福島県南相馬市原町区 編集製作「5535の会」事務局(山崎健一))



大槻さんの写真で “大震災ニ写真パネル” 40枚ができました

■事務局では、原町区の写真家大槻明生さん(会員)が震災直後に南相馬市の津波などの被災状況を撮影された貴重な写真をもとに、約40枚の写真パネルを制作しました。■大槻さんは震災の翌3月12日から、避難しても月数回南相馬市に帰られて、数千枚の貴重な被災写真を撮り続けました。■この写真パネルは横52cm、縦38cmの大きさで、説明文も手書きの手作りですが、大槻さんのモノクロ写真は大変迫力があり、被災状況を強く訴えてきます。■元々、関東地方の人々に知っていただくために制作し、2月中旬に三鷹市での“まんさく展”で展示。このパネルや、本会会員からのハガキに書かれた脱原発のメッセージ数十人分は、インターネット **ブルースカイ東京** 検索でご覧になれます。

＜会員の皆さまからのハガキ・メッセージより＞ **ネットでご覧ください!**

- 福島、浜通りの原発被災地の人達はなんでそんなにオトナシイの?と、他の土地の方々から言われることがあります。政財界の圧倒的な力で黙らされ、「原発は安全」と信じこまされ、今度は事故はなかったことにの全国の動きの前に、何を言い怒ればいいのか。
- 福島中を逃げまわって、ようやく広島島の娘たちの家に落ち着いて4年になりますが、望郷の思いはつるばかりです。南相馬市小高区の自宅は撤去が決まっているとのこと。古巣の人達としやべりたくてなりません。
- 最終処分も出来ない様な原発は、負の遺産として次世代に残してはいけません。避難訓練よりも再稼働を阻止すべきだ。



「日本国憲法を基礎として築いた平和と繁栄を享受」

＜2月23日、55歳の誕生日・皇太子さまの発言＞

「私自身、戦争を体験していないが、戦争の記憶が薄れようとしている今日、謙虚に過去を振り返り、戦争を知らない世代に悲惨な体験や日本がたどった歴史が正しく伝えられていくことが大切です。」「(戦後の日本は)日本国憲法を基礎として築き上げられ、平和と繁栄を享受している」
 「(戦後70年の)本年が平和の尊さを心に刻む機会になれば」



と発言された皇太子殿下。憲法の解釈を変えて戦争への道を突き進む安倍首相へ、暗に警告を發しているかのようです。また、ここ数年の天皇の発言も、「日本国憲法を大切に」と訴えておられます。●ところで、「日本の平和と繁栄は日本国憲法を基礎としている」ときちんと報道している新聞は、『毎日新聞』『福島民報』『福島民友』で、『朝日・読売・日本経済・産経』の各新聞ではこの部分の報道はないということです。メディアが萎縮しています。

○東京マラソンで日本勢トップの今井正人さん・世界陸上へ○



今3名の南相馬市出身者が注目です。112歳で男性世界最高齢百井盛さん、テレビ小説『マッサン』の娘工役役の優希美青さんともに原町区石神出身です。2月22日の東京マラソンで7位、日本勢トップの今井正人さん(30)は小高区生まれ。順天堂大学時代の箱根駅伝の活躍から8年。今回原町高校同級生からの助言で股関節の動きを変えたことが成功の一因と報道されています。3.11の大津波で実家に置いた賞状やカップは流失しましたが、市民を励まそうと「山の神」を脱皮し、2時間7分39秒の自己最高タイムで日本人トップに。8月北京での世界陸上選手権やりオ五輪で、「地元の方にお返しできるように走りたい」と話しています。